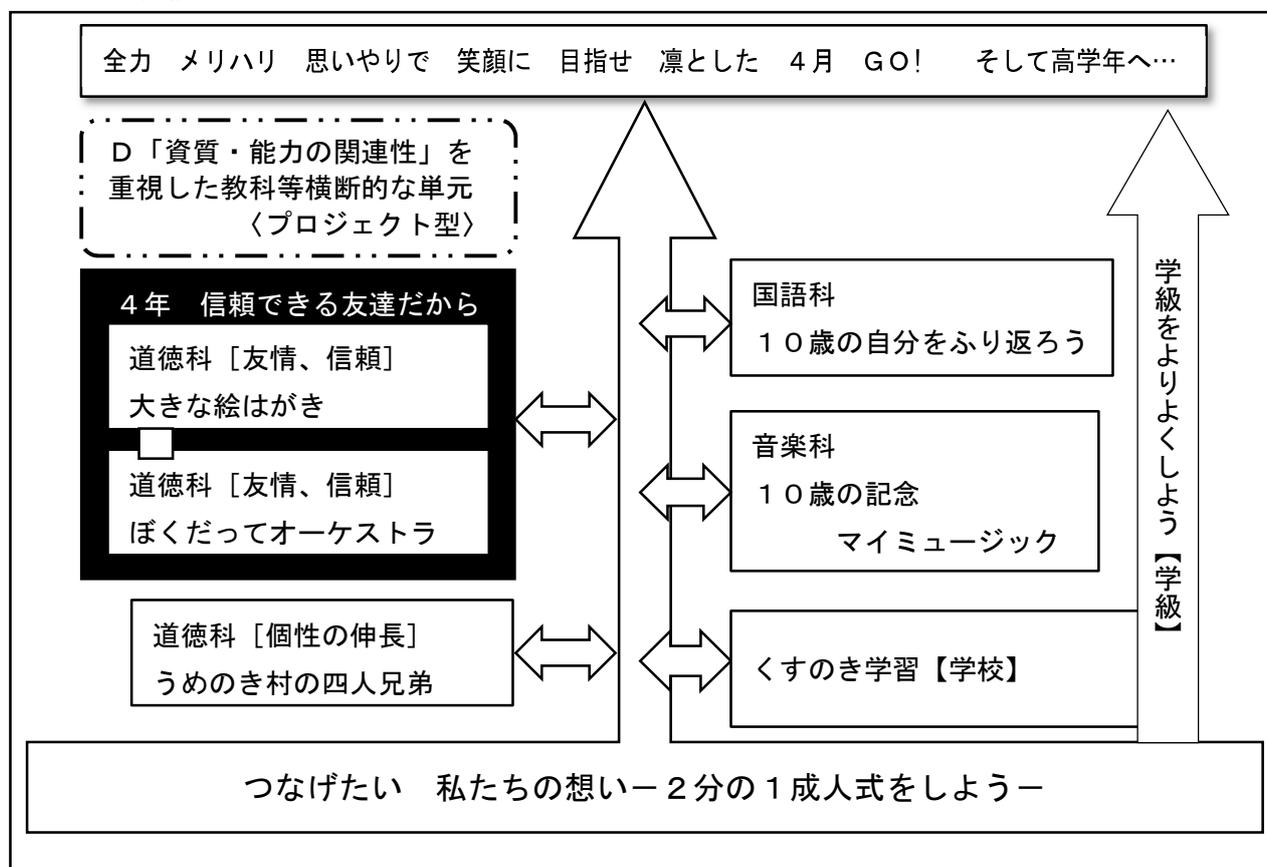


第4学年月組 道徳科（+くすのき学習【学級・学校】・国語科・音楽科）

「信頼できる友達だから」

指導者 森田 宏美

1 単元全体構想図



2 単元構想について

友達との良好な関係について考えると、仲が良く互いに信頼し合っているということを感じてくることができる。仲が良くなっていく要因を考えていくと、一緒に遊ぶなどして共に時間を過ごすことや、話をしている気が合うことなどが考えられる。そのような時間を過ごす中で、自分を出しても大丈夫であるという安心感や信頼できるという思いが生まれる。時には、意見がぶつかり対立することもあるだろう。双方に思っていることを言い合えるのは、相手のことを本当に大切に思っているからだ。だからと言って何でも言い合うというのは、関係を崩すことになりかねない。相手のためになっているのか、自分のためだけになっていないのかを十分吟味した上で、どのように伝えればいいのかを考えることが大切である。

本学級は、明るく素直で、みんなで話し合っただけで決めたことは、多少苦手なことでも最後までやり抜こうと頑張る子どもが多い。しかし、友達に優しい気持ちで接することができる一方で、友達だからと強い口調で話し、気付かないうちに友達を傷つけてしまっていたり、嫌われるかもしれないからと自分の思いを上手く伝えられず我慢してしまったりすることも少なくない。そのようなことがありながらも、「友達といると楽しい」、「このクラスが好き」と感じている子どもが多い。

子どもたちは、遊んでくれたり、自分が困った時に助けてくれたりする人が「友達」であると捉える傾向にある。それは、自分にとって「快」になることをしてくれる存在が友達だと認識しているからではないかと考えられる。これまで子どもたちは、学級をよりよくするために友達について話し合いを重ねてきた。そこから、「本当の友達」になるためには、相手のことを考えて接することが大切であると気付き始めた子どもも数多くいる。そうした子どもたちに、相手の気持ちを考え、言いにくいことも、あえ

て相手のために伝えることも友達であることに気付かせ、「本当の友達」について改めて考えることは、意義深いと考える。よりよいものを求め、高め合っていける関係に心地よさを感じ、その在り方についてじっくり考えさせたい。

本教材は、転校してしまった親友から絵はがきが届くのだが、郵便料金が不足していたことを、本人に伝えようか迷ってしまうという内容である。伝え方によっては友達という関係を崩しかねない。一方で、友達だからこそ今後も同じ過ちを繰り返さないようにするためには伝えるべきことではないかと考えられる。この場合どうすればいいのか考えることを通して、信頼できる友達とはどういうものかについて考えを深めることができる教材である。

そして、道徳科で培った資質・能力を生かし発揮する場としてくすのき学習【学級・学校】を設定した。よりよいクラスにしていこうと、普段の生活の中で、信頼できる仲間とともに相手を大切にする気持ちを持って行動したり、係活動に取り組んだりすることを期待している。

### 3 単元（道徳科）のねらい

友達のことを理解し、互いに信頼し合い、時には注意し合いながら、友情を深めていきたいという思いを持つ。

### 4 単元の展開（道徳科全2時間）

場面	主題と主な学習活動	評価の規準	時間
出合い 追究 振り返り	友達のよさ「ぼくだってオーケストラ」 ○ 友達と互いに理解し励まし合いながら、よりよい関係を築くことについて考える。	● 仲間とともに助け合うことで、互いに成長することができるという友達のよさに気付いている。	1
	信頼しているからこそ「大きな絵はがき」 ○ 友達に対して、言いにくいことでも伝えるべきかどうかについて考える。	● 友達のことを理解し、言いにくいことでも伝えようとする思いが高まっている。	1 本時

### 5 単元（道徳科）における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントとなる言葉や挿絵を提示し、子どもが登場人物に共感しながら、自分のこととして考えられるようにする。（学）</li> <li>友達がいることのよさや、信頼できる友達とはどういう友達かを尋ねることで、これまで持っている価値観を問い直したり、自分の持っている価値観を確認したりする。（学・自）</li> <li>事前に資料を読んでおくことで、課題についてじっくりと考えられるようにする。（学）</li> </ul>
追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くの子どもの考えを引き出すことができるように、小集団による話し合いを行うようにし、どうしてそのように考えたのかを子ども同士で互いに聞き合う場を設け、自分の考えを明確にできるようにする。（他）</li> <li>全体の話合いでは、教師が根拠を問うなど切り返しの発問を行うことで、行為の背景にある思いについて考えるようにする。（他・自）</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>終末に自分が納得できる考えを書く活動を取り入れ、自己を見詰める場を設ける。（自）</li> <li>学級でまとまった考えを、板書と共に教室に掲示し、道徳科で学習したことが、生活やくすのき学習【学級・学校】につながっていることを実感できるようにする。（自）</li> </ul>

## 6 評価の具体的な方法

本単元を通して「深い学び」を実現したとき、次のような姿が表れると考える。

- 提示された場面から何が問題であるかを捉え、自分のこれまでの生活と重ねながら、どうするべきかを考えようとしている。(学)
- 小集団や全体での話し合いを通して、多様な価値観に触れ、友達がいてくれることよさや信頼できる友達について、自分の考えに自信を持ったり、自分が持ち得ていない価値観に出合ったりして、考えを広げ深めようとしている。(他)
- 自己を見詰め、互いを理解し、信頼し合って、更に友情を深めていくために、これからどういう心持ちで過ごしていきたいかを考えようとしている。(自)

### (1) 空間軸から見た手立て

#### ア 指導者評価

上記のような姿が表れているか、空間軸（ワークシート、ファシリテーション・ツール、発言）をつなげて見取るようにする。

視 点	方 法
○ 登場人物に共感し、自分のこととして考えることができているか。	ワークシート、様態
○ 他の人の考えを聞き、信頼できる友達について、多面的、多角的に考えようとしているか。	ワークシート、付箋紙、様態
○ 友達に対する多様な価値観に触れ、更に考えることを通して、自分にとって納得できる考えを見出すことができたか。	ワークシート、様態

#### イ 子どもによる自己評価

授業の終末に、自分の学び方がどうであったかについて、ワークシートを用いて振り返る時間を設ける。各項目5点満点で自己評価を行うようにする。最後の項目のみ100点満点とし、理由を簡単に書くようにする。教師は、数値が変化した理由について考えたり、個別に子どもに話を聞いたりして、授業改善につなげる。

質 問 項 目
○ 友達の話をよく聞くことができましたか。
○ 自分の考えを伝えることができましたか。
○ 今まで知らなかったことに気付いたり、新しい考えを思い付いたりすることができましたか。
○ 今日のテーマについてよく話し合い、考えを深めることができましたか。
○ 学習をしてよかった度は何点ですか。なぜその点数にしましたか。

### (2) 時間軸から見た手立て

授業後の様子やくすのき学習【学級・学校】などで、友達のために自分にできることを誠実に行う姿を取り上げ、全体にフィードバックする。学期末には、子どもがこれまでに書いたワークシートを振り返る機会を設定する。教師は、時間が経過して考え方に変化があったのかななどを、振り返りシートを用いて見取るようにする。

7 本時の授業（2/2）

- (1) 日時 令和2年2月1日（土）10:20～11:05
- (2) 場所 4年月組教室
- (3) ねらい 友達の過ちを伝えるか伝えないかを話し合うことを通して、信頼し合っているからこそ、いけないことはいけないときちんと伝えることが大切であるという思いを持つ。
- (4) 準備物 挿絵、センテンスカード、付箋紙、ホワイトボード、マジック、ワークシート
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 現段階で思う信頼できる友達についての考えを出し合う。	<p>信頼できる友達って、どんな友達だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時に助けてくれる友達。</li> <li>・いけないことをきちんと言ってくれる友達。</li> <li>・本当に自分のことを考えてくれている友達。</li> </ul>	○ 自分の生活を振り返るようにすることで、ねらいとする価値の方向付けを図る。
2 教材をもとに話し合う。	<p>転校していった仲良しの正子から絵はがきをもらって、広子はどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久しぶりで嬉しいな。</li> <li>・元気そうでよかった。私も返事を書かなきゃ。</li> <li>・来年の夏休みに会いたいなあ。</li> </ul>	○ 手紙をもらって読んでいるときの広子の気持ちについて考えることで、嬉しいと感じる広子に共感し、料金が不足していたことを伝えるかどうか考える際の手掛かりにする。
	<p>母と兄の考えを聞き、部屋に戻った広子はどんなことを考えたのだろう。</p> <p><b>伝える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄ちゃんが言っていることも分かるから、伝えようかな。</li> <li>・次から同じ間違いをしたらいけないから、伝えた方がいいかな。</li> </ul> <p><b>伝えない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく私のために送ってくれたのに、嫌な気持ちにさせてしまうな。</li> <li>・言いにくいな。私が言わなくても、他の人が言ってくれるかも。</li> <li>・そんなに高いわけじゃないし、絵はがきなんてめったに送るものではないよ。</li> </ul>	○ 自分の考えを持って話し合いに参加できるように、自分の考えを付箋紙に書く時間を十分に確保する。 ○ ファシリテーション・ツール（ホワイトボード、付箋紙）を活用するようにして、自分の考えと共通しているところや違うところはどこかを比較しやすくする。
	<p>もし、間違えた相手が友達じゃなかったら伝えるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える。向こうが勝手に送ってきたものにどうしてこちらがお金を払わなければならないのかと思う。</li> <li>・伝えない。そんなに高いわけじゃないし、やり取りが面倒。</li> <li>・友達だから伝えようかどうか迷う。料金が不足していることを伝えて、友達じゃなくなるんだったらそれまでの友達だったのかもしれない。言い方を考えて伝えてみよう。</li> </ul>	○ 多様な価値観に触れられるように、小グループで、互いの付箋紙を比べさせ、異同に注目しながら班ごとに考えをまとめられるようにする。 ● 友達のことを理解し、言いにくいことでも伝えようとする思いが高まったか。 [発表、様態]
	<p>信頼できる友達ってどんな友達なんだろう。今日の学習で思ったことや考えたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、伝えると正子が嫌な気持ちがするかなと思って言いにくいと思っていました。言いにくいことでも、間違っているということを伝えられるのが本当の友達だと思いました。</li> </ul>	○ これまでの自分の生活を振り返りながら、考えを書くよう伝える。